

2013年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学大学院助産研究科

はじめに

本学は、建学の精神「愛をとおして真理へ」を掲げ、看護師・保健師、管理栄養士、助産師を育成するカトリック大学として、専門的知識・技術の習得はもちろん、それに与る専門職としての人間性を涵養することを目指しております。本学の教学組織に関する主な活動は、委員会活動を中心に行い、その時代・情勢の要請に基づく迅速かつ柔軟な取り組みを「学長直轄プロジェクト」として展開しております。

教学のさらなる発展に向けて自己点検評価委員会を中心に、各委員会の活動点検評価を行っておりますが、継続的な活動の改善のためには plan 計画—do 実行—check 評価—act 改善からなる PDCA サイクルが必要と考えます。本年報は PDCA サイクルの「評価」の部分に当たり、計画を超えて達成できた点、計画通りに進まなかつた点、などを評価し、それを次のサイクルへと繋げ、らせん状に活動の改善がなされることを期待するというものであります。真摯に自らの活動を省み、改善に繋げていきたいと思いますが、常に自らを省みることはカトリック精神の内省性にも通じるかと存じます。多様な委員会活動等が本学の設置された目的、建学の精神に則って展開されているかをきちんと評価する必要があり、また、そのように展開されることを期待しております。

発行が遅れましたが天使大学大学院助産研究科 2013 年度年報をお届け申しあげます。学外関係者の皆様には、平素の助産研究科の運営へのご理解、ご支援を深く感謝申しあげますと共に、本年報にお目通し頂き、ご指摘、ご批判を頂きたく存じます。それによって、教職員一同さらに鋭意努力してまいりたいと願っております。ご指導のほどよろしくお願ひ申しあげます。

2014 年 11 月

天 使 大 学
学 長 武 藏 学

自己点検・評価報告書

目 次

I.	教育課程	1
II.	院生の受け入れ	2
III.	教員組織	3
IV.	研究活動・研究環境	4
V.	F D活動等	5
VI.	社会貢献	6
VII.	国際交流	7
VIII.	学生生活・就職支援	8
IX.	図書館	9
X.	情報処理システム	10
XI.	施設・設備	11
XII.	管理運営	12
XIII.	財務	13
XIV.	事務組織	14
XV.	自己点検・評価活動	15

I. 教育課程

担当：教務委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラムの改善の検討（2年間継続） 2. 実習評価の検討 3. 実習指導環境の充実（実習指導教員の確保等） 4. 実習施設の開拓
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係職能団体・学会等が作成した助産師教育モデルカリキュラム等および修了時の到達目標・コアコンペテンシー等を参考に、現在のカリキュラムを検討した。 基礎分野および教育分野それぞれに、今後、改善をすべき課題について、次年度以降、具体的なカリキュラム改正の計画を立案していくことになった。 2. 本大学の教員 F D に参加し、授業評価の学びから、本助産研究科実習評価の見直しが必要と考えられた。今後、助産研究科 F D で具体的な評価方法を検討することになった。 3. 実習指導教員の充実を図ることは、院生の実習における学びを効果的にすることから、特に遠隔地における実習指導教員の確保に力を入れた。その結果、実習施設で勤務経験があるベテランの助産師を得ることができた。しかし、専任教員の遠隔地での長期出張や夜間呼び出し待機による負担を軽減するためには、十分な実習指導教員確保には至っていない。今後とも課題として継続する必要がある。 4. 専任教員が病院看護部を訪問して、実習計画を説明、臨地実習協力の依頼を行った。 2014 年度より新規実習施設 1 か所（砂川市立病院）を確保できた。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了時到達目標とカリキュラムの整合性の検討 2. 実習環境の充実
自己点検評価委員会からの評価	<p>2年間継続のカリキュラム改善計画については改善すべき点の明確化など課題が多いと考えますが、今後の改正カリキュラムの立案・施行に期待します。</p> <p>また、助産研究科分野での実習指導員の確保の難しさは周知されているところですが、更なる努力に期待します。</p>

II. 院生の受け入れ

担当：入試・広報委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学試験時の適切な選抜について検討する。 2. 本学看護学生への入学基準の見直し、検討。 3. 広報活動の強化。
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後の学習や実習への不適応から休学・退学する者を少なくするためにも、入学試験における特に面接試験では、本研究科の入学者として適切と判断するのかを面接担当教員間で論議した。また、これまでに休学・退学した者の入学試験時の評価分析を行った。 しかし、限られた情報と時間の面接の中で入学者の適性を判断することは依然難しいことであり、今後とも教員間での面接試験に関する検討が必要と考えられた。また、入学後の院生個々に対する学習支援の在り方も同時に重要な検討事項であると思われた。 2. 本学卒業入学生と他看護大学卒業入学生の入学後の学習成績の分析を行い、本学看護学生の推薦入試基準について検討を行った。 3.
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本学大学祭にあわせ、ミニオープンキャンパスを開催した。 昨年度からの開催を継続し、十数名の参加者からのアンケート結果から、助産研究科の特徴や授業や実習について知ることができた、との高評価が得られた。次年度も継続する意義があると考えられた。 2) オープンキャンパスにユーストリームを活用し LIVE で実施した。 参加が少なかった東京説明会を中止したこともあり、オープンキャンパスをライブでインターネット参加できる方法で開催した。実際にインターネット参加者の人数は多くはなかったが、今後の広報活動を行い継続することは札幌市外や道外における進学希望者には有効なシステムとなりうると考える。 3) ほか下記の広報活動を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学看護栄養学部看護学科3年生、4年生への助産研究科説明会を開催した。 2) 本学看護栄養学科教職員に、他の助産教育機関と助産専門職大学院との違い、本研究科の特徴について説明を行った。 3) 本研究科の紹介・募集のリーフレット等の送付先、掲載誌等の見直し、検討を行った。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学学部生の推薦入学について検討する。 2. 学習支援の充実を図る。
自己点検 評価委員会 からの評価	入学時の選抜についての検討やインターネットを用いた広報活動等を積極的に行つたことを評価します。今後も、本研究科のメリットをアピールしていくような広報活動を期待します。

III. 教員組織

担当：教務委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員組織の強化をはかる。 2. 新人教員の育成をはかる。
活動内容の評価	<p>1. 教授 11 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 1 名、助手 1 名の 16 名（助手 1 名含む）である。教授 1 名と助教 2 名が退職し、特任教授 1 名と助教 1 名、助手 1 名が入職した。特任教授は助産教育全般に渡り、永年、アメリカの大学・大学院で教育を行い、当科、開設から 6 年間尽力頂いた教授が特任教授として戻って頂いたことは、組織としての発展に多大な力となった。</p> <p>2. 新入職教員には、入職時にオリエンテーションを担当教員から行っている。 (専門職大学院のカリキュラム、大学校舎の構造、事務手続き、大学院教員の職階・職務、会議、委員会活動、シラバス、時間割、実習等) 実習については、事前に担当施設の研修に行き、実習準備は科目責任者が一緒に実習に関する相談に乗っている。また、担当施設は、札幌市内で、臨床指導者が専任でいる施設となるよう配慮をしている。 退職した助教 2 名は実習指導教員としての経験は 2 ~ 3 年あったが、教員としては新人であり、1 人で 3 名の院生の実習指導を担当する負担感は大きく、新人教員の指導計画の検討が急務課題として挙げられた。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の充足・強化をはかる 2. 新人教員のキャリアラダーの作成
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>専門職大学院として教員組織の充実強化を図る必要があり、特に実習担当教員の充実が喫緊の課題となっていることから適切な教員構成となることを期待します。</p>

IV. 研究活動・研究環境

担当：学術振興委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会の定例開催を行う。 2. 競争的外部資金導入のための情報を収集提供し、科研費申請件数の増加等を目指す。 3. 学術振興に関する「よろず相談」を実施し、研究環境整備、特に若手研究者の育成（助手の待遇改善など）の道を探る。 4. 紀要是年2回発行を継続。第14巻第1号、第2号を作製し、電子化・公開する。 5. 機関リポジトリに掲載する研究情報についての検討を行う。
活動内容の評価	<p>1・研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会を開催した。学科間を越えた研究の取り組みは特別研究費で一部行われているが、全学挙げての取り組みが地域貢献などの観点から必要と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期研究報告会の開催：2013年8月2日(金)13:00-15:30 出席：34名 紀要執筆者1名と新任教員4名の発表 ・後期研究報告会の開催：2014年3月20日(木)9:00-15:20 出席：43名 特別研究費取得者の発表：中間報告8件、最終報告4件(新規8件、継続4件) <p>2・競争的外部資金導入のための情報収集と提供については、科研費説明会において過年度審査委員や採択者によるアドバイスを実施した。</p> <p>また本学研究に資する目的で神戸大学大学院教授の大澤朗先生講演会を委員長の研究費で開催した。参加者は北大の方を含め18名ほどであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費説明会：2013年9月3日(火)17:00-18:30 出席：19名 ・大澤朗氏講演会：2013年7月11日(木)18:00～19:00 出席：18名 ・今年度科研費採択件数は継続4件、新規1件の5件であった。 ・次年度申請件数は14件である。受託研究及び事業は5件と激減した。 <p>3・研究環境整備に関しては、若手研究者の育成という観点から、助手の待遇改善について検討を行ったが、講座制のない本学においては難しい課題となっている。</p> <p>教育・研究体制の抜本的な見直しが必要と思われる。</p> <p>4・大学院生を含む若手研究者の育成の意味も込めて、紀要の年2回発行を実施し、前期は3件、後期は11件の投稿を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の作製期間について、6か月では厳しいことから、次年度より9か月とし、4～12月で第1号を、7～3月で第2号が発刊できるよう変更することが了承され、投稿規程等を改正した。 5・他大学の機関リポジトリを総覧し、10項目の収録コンテンツや規程を整備した。 <p>6. 2012年より調査を開始した「専門職大学院における助産教育の評価」に関する研究結果を第28回日本助産学会学術集会において発表した。</p>
次年度への課題	<p>1については学科間を越えた全学的研究活動の促進、2については申請件数増加のための努力、3については具体的方策の検討、4については新しい作製期間での円滑な紀要作製ができるよう、いずれも次年度の課題とした。また、機関リポジトリについては掲載する研究情報の円滑な収集に向けた検討を行うことを課題とした。</p>
自己点検評価委員会からの評価	<p>全学的な取組と助産研究科独自の取組が明確でないので、分けて書かれる方が良いと思われます（全学と研究科を対比して記入するなど）。</p>

V. FD活動等

担当：教務委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育評価に関するFD研修会を開催する 2. 学生による授業評価アンケート結果を基にした全学的授業改善体制を作る 3. 「ICMの専門職助産師教育のためのモデルカリキュラム」と当科カリキュラムとの整合性を検討することができる。 4. 大学FD研修会で「教育評価」について学び、助産研究科のカリキュラムの検討に活かすことができる。
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育評価（成績評価方法）に関するFD研修会（含むワークショップ）を外部講師を招いて開催した。本年度の2回の研修により、学生による授業評価アンケート結果から抽出された問題「授業概要（シラバス）の活用」に関するFD研修会が、シラバスとは何か（2012年8月）を皮切りに、それを構成する「授業目的・目標」（2013年3月）、「授業評価」（2013年8月）、「授業方略」（2014年3月）とシラバスの全ての構成要素に関する研修会が修了した。FD研修会のアンケートでは、「満足」「どちらかと言えば満足」の値がそれぞれ96.4%、100%、85.0%、73.9%と研修内容に対しての満足度が高い数値が得られ（根拠資料参照）、シラバスの構成要素全てに関する研修会が効果的に実施できた点は評価できる。 また、2013年度第2回FD研修会では（2014年3月）「授業方略」とともに「カリキュラムの運用」もテーマに取り入れた。これは次年度の課題にもあるとおり大学全体のディプロマポリシー（以下、DP）およびカリキュラムポリシー（以下、CP）と両学科のDPおよびCP、科のCPと各授業との繋がりを確認する必要があるため、それに関する足がかりとして行ったものである。FD活動の一貫性を担保できたことは評価できる。 2. 学生による授業評価アンケート結果を基にした全学的授業改善体制の構築を教務委員会と協力して行った。質問項目を刷新し、2013年度前期科目から実施した。FD委員会ではアンケート結果のデータを基に、担当教員が授業ごとに改善案を作成する取組みを行った。業者選定および帳票作成に時間を要したが、年度内に実施できたことは評価できる。 3. 助産研究科FD研修として「ICMの専門職助産師教育のためのモデルカリキュラム」をもとに、当科のカリキュラムとの整合性について検討を行った。 検討の結果、モデル助産カリキュラムの中の「助産に関する内容」は、当科カリキュラムでは網羅されていることが確認できた。さらにモデル助産カリキュラムでは、モジュール/指導ユニットの組み立て方が詳細に説明されているため、助産教員としての学びを深めることに繋がった。 4. 臨床指導者FD研修として、リリー・シャ特任教授を講師に「学生中心の学習のためのパートナーとして、教師、リーダー、助言者に強固な基礎を築く」の講演を行った。 参加者は臨床指導者8名、実習指導教員3名、教員7名、教育分野1年次4名の22名であった。参加者からは、学生中心の指導という面で、自己の指導の振り返りができ、今後の指導に活かすことができる、というコメントが多かった。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに関する研修成果の検証。 カリキュラム（学部・学科・科のCPやDPと各授業を繋ぐ）に関するFD活動を実施する。 2. 学生の授業評価アンケート結果を用いた全学的規模の授業改善体制の運営（公開方法とその検証）方法の確立 3. すべての実習要項の再検討 4. 実習のループリック評価の作成
自己点検 評議委員会 からの評価	<p>活動目標に沿い、FD研修会開催や授業改善体制の構築など、一定の成果があったことは評価できます。</p> <p>活動内容の評価を基にした次年度への課題が出されています。これら課題が次年度の活動目標へ繋がり、改善が進むことを期待します。また、学部と合同の研修会への研究科の参加状況や授業評価を研究科として評価した点を明記することが重要と思います。</p>

VI. 社会貢献

担当：教務委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・教育機関・職能団体の活動ニーズに応じて、教員を派遣し、専門職として社会に貢献する。 2. 助産に関する職能団体等の役割を担うことで、助産師等専門職の強化に貢献する。 3. 地域の若者を対象とした思春期教育（自治体との連携事業）
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> 1) 第2回胆振地区新人助産師教育研修会の講師を教授が再度務め、新人助産師教育の課題に対する解決策の講義と事例を用いた具体的な内容による意見交換で、「今後の目標に繋がった」という評価を得た。 2) 鈴鹿赤十字病院の助産師スタッフ対象に「助産と法」について教授が講義し、「法に対する理解を深められた」との評価を得た。 3) 市内1校、道内1校の看護専門学校で、災害看護の授業をその分野に秀でた教授が担当し、継続している。 4) 日本私立看護系大学協会会长を特任教授が務め、全国における講演、研修会講師として活躍し高評価を得た。 5) 日本看護研究学会北海道地方会の監事に教授1名が就任し、継続している。 6) 北海道思春期研究会で教授1名、准教授1名が役員を務め継続している。 7) 北海道助産師会の会長・副会長の要職に准教授、教授が就任し、活動の充実をはかり、助産職能団体の強化に貢献し継続している。 8) 全国助産師教育協議会「ファーストステージ研修」の講師として当研究科教授および特任教授が担当し、評価を得た。 9) 全国助産師教育協議会「ファーストステージ研修」の研修生1名の教育実習を受け入れ、当研究科教授が実習指導を行い評価を得た。 2. 2013年9月27日から11月8日にかけJICA主催の地域別研修「母子保健（B）」コースを担当し、アフリカ英語圏の研修生9名を引き受けた。学内講義（今年着任のアメリカ在住の特任教授の助産教育に関する講義他）、地域研修（神奈川、道東）学部生・院生との交流等を終え、多くの学びを得たと、高い評価を得られた。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度も引き続き、依頼を引き受け、社会貢献に寄与する。
自己点検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

VII. 国際交流

担当：教務委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産実習の安全の確保 2. 海外からの研修員の受入れ協力
活動内容の評価	<p>1. 国際助産実習をマダガスカル共和国アンチラベの産院（カトリック修道会経営）で行っているが、毎年懸念されることは、院生の体調管理、安全確保である。長期在留の邦人であるベテラン助産師の働く施設で実習し、更に昨年より、実習支援者として、臨地で実習経験があるベテラン助産師が同行してくれたことから現地での院生のスムーズな実習につながった。今後は、実習支援者を期間限定の本助産研究科所属とするなどの身分保障を検討する必要があると考える。</p> <p>2. 独立行政法人国際協力機構北海道からの研修依頼を受け、アフリカ英語圏 5か国から 9人の助産師（助産師教員等）を助産研究科で受入れ母子保健研修を行った。開発途上国における母子保健の貢献が望まれるとともに、日本における母子保健の課題に気づかされる点もあり、研修を受け入れた教員にとっても有意義な交流となつた。また、今年度は、本学の学部生や助産研究科院生との交流会を行つた。学生・院生にとっても国際的な視野を持つ機会となつた。</p> <p>研修終了後の研修員評価では、研修内容について高評価を得られた。</p> <p>研修名：地域別研修「母子保健（B）」コース</p> <p>研究期間：2013年9月27日から11月8日</p> <p>研修員出身国：ガーナ、ナイジェリア、スーダン、ジンバブエ、ナミビア</p> <p>主な研修内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内講義（母子保健関連、助産師教員関連） ・地域研修（神奈川県、釧路市、標茶町）：行政機関、病院、助産所、障がい者施設、過疎地における周産期医
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産実習の充実 2. 国外からの研修への協力
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>国際助産実習の安全の確保・体制については今後も検討を継続してください。</p> <p>課題の国際助産実習の充実については、評価内容を明確にして具体的な改善・充実に向けた内容の検討を進めてください。</p>

VIII. 学生生活・就職支援

担当：教務委員会（学生生活・就職）

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 2. 学生の健康支援 3. 学生生活実態調査実施 4. 学生課外活動への支援 5. 就職支援
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) メントーシップによる学修・生活支援の充実 <p>入学時から学生一人一人にメントー（よき助言者）となる専任教員をおき、学習進度を確認し、学生の専門職者としての自己課題の発見および成長に必要な指示、方向付け、フィードバック等の支援を行った。また、生活支援の充実のため相談役となり、支援を行った。</p> 2) 学生の経済的支援 <p>奨学金は、天使大学奨学金、天使大学同窓会、日本学生支援機構奨学金、日本助産師会奨学金、北海道看護職員修学資金等を紹介し経済的支援を行った。また、地方自治体や団体等の奨学事業も積極的に紹介した。</p> 3) 学生生活ガイドブックの充実 <p>学生生活ガイドブックを発行し、全学生・教職員へ年度初めに配布した。学生生活全般について理解できるよう学生生活ガイドブックの内容を充実させた。</p> 4) 事件事故の予防 <p>実習で夜遅く帰宅することが多いため、「防犯ブザー」を全学生に配布した。また、「護身術」講習を実施し、事件に遭わないよう啓発活動を行った。 災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「WILL」）への加入を義務づけ、実習中等に傷害・賠償・感染事故が発生した場合の対応策をとった。</p> 2. 学生の健康支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健相談室の現状 <p>学生の定期健康診断はセット検診（X線撮影、身体計測、聴力、聴打診、血液採取等）を実施した。また、季節性のインフルエンザ感染予防対策としてマタニティサイクル助産ケア統合Ⅰ実習の開始前に予防接種を実施した。</p> 2) 学生相談室の現状 <p>学生相談室の相談員を2名体制とし週5日の開室日を設け、月曜日から金曜日までいつでも相談を受けられる体制を継続した。実習継続の困難学生に対して学生相談室相談員と連携をとりながら学生支援を行った。</p> 3. 学生生活実態調査「天使大学大学院生学生生活についての調査」の実施 <p>教育分野・基礎分野2年次生に修了前に学生生活実態調査を実施した。</p> 4. 学生課外活動への支援 <p>1年次生が合唱コンクールに参加した。</p> 5. 就職支援 <p>1年次生対象に接遇ガイダンス、2年次生対象に就職ガイダンスを実施した。就職活動ガイドブックを配布した。就職相談室の活用及び周知を強化した。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般の支援については、メントーシップの強化を始め、「天使大学大学院生学生生活についての調査」結果を分析し、よりよい学生生活支援を実施するためさらに検討していく。 2. 経済的支援として、各種奨学金紹介のより一層の充実を図る。 3. 健康支援については、今後も学生相談室、保健相談室の相談員と連携し、更なる充実を目指す。特に実習開始前に学生相談室と連携し、メンタル面での支援強化を行う必要がある。 4. 就職支援については、大学院生のニーズに応じた支援体制の強化が課題である。
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>2012年度、2013年度とほぼ同一の内容です。特に学生生活実態調査の結果の分析・評価により課題を明確にして学生生活支援の充実のために検討を進めてください。</p>

IX. 図書館

担当：図書情報委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館情報管理システム LIMEDIO の外部公開用検索サーバ導入によるサービス開始 2. 平日開館時間の変更に伴う業務委託の取り止めと実態に見合う開館時間の設定 3. LIMEDIO による蔵書点検の実施：年度内に 1 回実施(実施時期は 3 月) 4. 図書館オリエンテーションや文献検索ガイドの見直し 5. 機関リポジトリの本学に相応しいあり方の検討と実施計画の策定 6. 将来構想への提言：新館構想に向けての素案提示
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外から所蔵検索やマイライブラリーを通しての文献複写依頼や図書の貸出予約、CINAHL 等の一部データベースが利用できるようになり、利便性が高まった。 2. 平日は 8 時 50 分～21 時とし、試験期間は 8 時 30 分～21 時 30 分に延長して対応した。 <ul style="list-style-type: none"> ・利用実態に見合う開館時間の設定ができ、業務委託を取り止めることができた。 3. 利用が最も少ない 3 月下旬の閉館時に実施することとした。 <ul style="list-style-type: none"> ・書架の移動作業も実施することができ、利用環境の改善につながった。 4. 担当教員と連携して、講義等に合わせたガイドを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望に応じてガイドやオリエンテーションを実施した。 5. 本学の機関リポジトリ構築については、国立情報学研究所開発の共用リポジトリを利用。図書情報課が一致協力して対応し、2014 年 4 月 1 日運用開始の準備を完了した。 <ul style="list-style-type: none"> ・収録コンテンツは学術振興委員会の審議を経て 10 項目を確定した。 ・機関リポジトリ管理運用規程を図書情報委員会に諮り、教育研究評議会に上程した。 6. 図書館及び情報処理室とも新館建築に関する素案を提示し、計画化を待望している。 <ul style="list-style-type: none"> ・2013 年度に予定されていた理事会の将来構想計画が示されなかつたため、書庫狭隘化や閲覧スペースの不足など、施設設備上の問題点について、対策を講じる必要がある。 7. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・洋雑誌については円高と原価の高騰で、大幅な購読料増加となったが、次年度ゼロ・シーリング予算のため、図書費を削って対処することとした。 ・次年度図書館貸出用パソコンについては、栄養学科の了承を得て「エクセル栄養君」と「食物摂取頻度調査 FFQg Ver. 3.5」をインストールすることが可能となった。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの運用開始と利用促進のための案内及び愛称募集の実施 2. 図書館サービスの見直しと改善案の提示 3. 過年度研究費登録図書の処理計画の策定 4. 電子書籍に関する利用案内の実施 5. 将来構想における図書館及び情報処理室の新築計画素案の準備
自己点検評価委員会からの評価	<p>目標に適切に対応した活動を行っており、特に外部サーバの導入や開館時間の見直しなど、図書館の利便性改善に向けた活動を進めたことは評価できます。</p> <p>図書館サービスのさらなる構築、特に次年度より運用が始まる機関リポジトリについて、円滑な運用が行えるよう期待します。</p>

X. 情報処理システム

担当：図書情報委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各システムの円滑な利用を推進し、保守管理体制を確立する。 2. 2013年度利用状況の把握やアンケート調査などを行って、利用マニュアルの改訂や説明会の開催などを計画・実施し、さらに利用環境の改善整備を図る。 3. 図書館と連携し、新館建築計画等の策定に際し情報提供ができるよう準備する。
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先との双方向授業や助産研究科の教授会などを円滑に行うため、年間を通してTV会議システムが活用された。 <ul style="list-style-type: none"> ・マリアホールやラウンジに加え、図書館内にも無線LAN域を設定して利用者の便に応えた。 ・保守管理については、業者との連携を深め、止まらないシステムを実現した。 ・今後はセキュリティ体制をより強固にして、安全で利用しやすいシステムの構築に重点を移す。次年度予算でi-Filterを導入し、フィッシングなどへの対策強化を図る予定である。 2. アンケート調査結果を詳細に分析し、図書館内の無線LAN域設定や個人用パソコンの持ち込みを認めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度にはさらに図書館貸出用ノートパソコン6台の導入、情報処理室平日の開室時間延長、情報処理室端末全台への「エクセル栄養君」や「食物摂取頻度調査FFQg Ver. 3.5」のインストールにより、全台均一利用を復活させ、施設の不備をさまざまな利用サービスでカバーすることができるよう準備中である。 ・学生・教職員向けサービスばかりではなく、法人側からの依頼にも応え、勤務時間管理用のソフト設計や以前から事務局で課題となっている学内LAN掲示板を利用した施設管理方法についても提案を行った。 3. 機関リポジトリについては国立情報学研究所の共用リポジトリを利用し構築することになった。図書情報課が一体での業務に取り組むこととし、情報処理室と図書館からJAIRO CLOUD講習会に出席して情報収集を図った。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各システムの円滑な利用とセキュリティ対策を講じ、保守管理体制を強化する。 2. 昨年度同様アンケート調査を行って要望を把握し、利用環境の改善整備を図る。 3. 図書館と連携し、新館建築計画等の策定に際し情報提供ができるよう準備する。 4. 機関リポジトリのシステム面に関する管理体制を構築する。
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>利用環境の改善整備として学内の無線LAN域の拡大やソフトウェアの導入を行うなど、利用者の利便性向上に向けた取り組みを行ったことは評価できます。</p> <p>今後は特に、課題に挙げられているセキュリティ体制の構築と強化に期待します。</p>

XI. 施設・設備

担当：事務局財務室

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老朽化する施設や設備の定期的な修繕工事と修繕計画の立案 2. エアコン設置や今後のガス単価の値上げに伴う更なる省エネ化 3. 中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案
活動内容の評価	<p>1. 本年度は8号館の渡り廊下の窓枠シーリング工事や5号館1階、4号館1階の非常口階段の補修工事など小規模な補修・修繕工事を行った。2号館看護学科学生ロッカーの更新入れ替えやマリアホールのテーブル・椅子の入れ替え、6号館1階講義室のAV操作卓設置など学習環境の整備も行った。2014年度には、6号館が建築後15年が経過することから、6号館設備の保守・修繕計画を立てた。また、2013年度も新校舎建設に向けて第2号基本金組入れ計画表に基づき第2号基本金引当特定預金への積み立ても計画通り行った。</p> <p>認証評価機構から指摘のあった校舎内のバリアフリー化についても、2014年度に修繕することとした。</p> <p>2. ボイラー室で集中管理されている1～6号館の暖房については、ボイラー室にてガスの使用量を調整しながら使用し、年度途中にガス単価を改定したが、契約内容を変更しながらこまめに使用量を調整した結果、光熱水費の上昇を抑えることができた。</p> <p>3. 中長期財務計画および新校舎建築計画については、2013年度に策定することができず、2014年度への継続検討課題となっている。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 校舎内バリアフリー工事等修繕計画の2014年度の実施 2. 中長期計画に伴う新校舎建築の立案
自己点検評価委員会からの評価	<p>次年度以降、大学基準協会の点検評価項目を参照し、教育研究環境整備やキャンパス・アメニティについて中長期的な計画を示しながら、具体的な教育研究環境整備状況を評価してください。バリアフリー化や認証評価の意見にあった図書館収蔵スペース、グループ学習室、閲覧室の狭隘化対策などについても検討してください。</p>

XII. 管理運営

担当：事務局総務課

本年度の活動目標	<p>1. 「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」などを定期的に開催し、学長のリーダーシップのもとに組織的な教学運営を行う。</p> <p>2. 助産研究科の委員会運営の強化</p>
活動内容の評価	<p>1. 教育研究評議会、教授会及び研究科委員会を定期的に開催し、教学事項を審議検討した。 教育研究評議会については、案件によっては書面会議として円滑な運用を図った。 教授会等の審議報告事項については、学園運営連絡会において報告され学園全体として共通理解に努めている。</p> <p>2. 助産研究科において、2013年度から教務委員会を再編し、教務委員会、入試・広報委員会とし効率的な運用を行った。</p>
次年度への課題	<p>「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」などを定期的に開催し、学長のリーダーシップのもとに組織的な教学運営を行う。</p>
自己点検評価委員会からの評価	<p>次年度以降、大学基準協会の点検評価項目を参照し評価を行ない、教学組織からの出されている課題、法人側からの課題等を明確にし、管理運営体制の適切性及び次年度への課題を評価してください。</p>

XIII. 財務

担当：事務局財務室

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続的な受験者数、入学者数の確保（特に大学院入学者） 2. 外部資金の確保（補助金収入、事業収入等） 3. 教育研究経費の効率的な予算配分（教育研究経費比率の上昇）
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2013 年度の受験申込者総数は 878 名と前年度 842 名から 36 名増加した。内訳は看護栄養学研究科 8 名（前年度 10 名）、助産研究科 38 名（同 35 名）、看護学科 580 名（同 525 名）、栄養学科 252 名（同 272 名）となった。入学者については、222 名と入学定員（225 名）を若干下回ったが、継続的に確保できているため、在籍者総数も 815 名と定員 806 名を上回っている。このため学生生徒等納付金や前受金が安定的に確保できており、財務比率は健全である。 2. 国庫補助金収入については、補助金対象教員数の減少および圧縮率の上昇などもあり 224,643 千円と前年度（232,819 千円）より 8,176 千円減少したが、事業収入においては 14,027 千円と前年度（8,871 千円）より 5,156 千円増加した。これは栄養学科教員による民間企業、財団からの受託研究が増加したためである。今後は大学全体で受託研究や受託事業契約を増やしていくことが必要となってくる。 3. 教育研究経費比率については、2013 年度は 24.1% となり、全国の保健系学部の平均（28.2%）と比較すると低くなっている。教育研究経費については教員の質的向上のため教育・研究の環境を整備するとともに特別研究費のあり方等を検討し、効率的予算配分に努めることとする。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続的な受験者数、入学者数の確保（特に大学院入学者） 2. 教育研究経費の効率的に予算配分（教育研究経費比率の上昇）
自己点検評価委員会からの評価	<p>次年度以降、大学基準協会の点検評価項目を参考し評価を行なってください。特に中長期的財政計画と現状の財政分析、予算案作成および予算執行の適切性や内部監査の適切性などについて記述してください。</p>

XIV. 事務組織

担当：事務局長

本年度の活動目標	<p>1. 大学運営の効率的で機能的な支援を行うため事務局体制の見直しを検討する。</p> <p>2. 事務局組織のレベルアップのため、専任職員の研修参加はもとより、同種の業務を行う嘱託職員についても研修の機会の充実を図る。</p>
活動内容の評価	<p>1. 事務局組織については、これまでの3課体制から3課（総務課、学務課、図書情報課）2室（財務室、入試広報室）体制として8月に機構改正を行い、職務と責任の範囲を明確にした。</p> <p>学務課の体制については教務担当、学生担当、就職担当の組織のあり方と、入試広報室の室長の兼任については、今後の人事状況等も勘案しながら検討を進めることにしている。</p> <p>専任職員と非専任職員のバランスについて、定数内で職員2名の専任化を図り改善した。なお、専任職員1名の退職補充について、公募したが適任者が採用できなかったので、年度中は派遣職員を配置した。</p> <p>各課・室の効率的な業務運営を進めるため業務分析を行うこととし、次年度において日計表、業務日誌などを電子処理化し、分析するための準備として整備を行ったところであり、試行結果を踏まえて検討することとした。</p> <p>2. 事務職員の資質の向上のため、事務局全体研修として9月6日にSD研修会を実施し、教職員修養会を12月24日に実施したほか、日本私立大学協会等が開催する各種研修会に職員を参加させ、その際、嘱託職員についても外部研修として各種会議、研修に積極的に参加させ、事務局全体のレベルアップに努めた。</p>
次年度への課題	<p>1. 大学運営の効率的で機能的な支援を行うための事務局体制の見直しを検討する。</p> <p>2. 事務局組織のレベルアップのため、専任職員・嘱託職員を積極的に各種会議・研修会に参加させるなど研修機会の充実を図る。</p>
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>次年度以降、大学基準協会の点検評価項目を参照し評価を行ない、次年度への課題は具体的に示すように心がけてください。</p>

XV. 自己点検・評価活動

担当：自己点検評価委員会

本年度の活動目標	<p>1. 大学における自己点検活動のあり方の検討 (PDCA サイクルによる自己点検活動) 2. 2012 年度年報作成および次年度以降の年報のあり方検討</p>
活動内容の評価	<p>1. 2011 年度大学評価の内容、課題については、適宜進捗状況を確認する機会を委員会として行った。</p> <p>2. 自己点検活動のあり方について検討した。その結果、自己点検活動は大学自らが内部質保証を担保するということを具現化するためにも本委員会が行っている年度末報告会や年報を基に、大学での課題等を明確にして各部署の活動につなげていくことができるようなはたきかけを行っていくこととした。この点についての全学的理解のために 2013 年度以降の年報作成にあたり、自己点検活動のあり方や内部質保証の意味等を含め教授会にて年報作成要領と併せ説明した (2014 年 1 月)。</p> <p>3. 2012 年度年報作成</p> <p>2012 年度版は 6 月の発刊を目指したが、構成を大きく見直したことにより原稿の取りまとめに時間を要したことと印刷校正に時間を要したため 9 月の発刊となった。</p> <p>助産研究科の年報作成は、2012 年度年報が未刊である。</p> <p>2013 年度年報作成にあたり、以下の点を 2013 年度の年報には反映すべく検討を行った。 ①毎年度同じ内容ではなく、目標、内容はその年度に焦点化したものを明確にする ②活動内容と評価を明確に、数値されるデータ等は具体的に示し活動の分析・評価を明確にする ③次年度の改善策は具体的にする</p> <p>4. 年度末報告会は 3 月末（後日加筆）</p> <p>5. 助産研究科の認証評価終了：課題については、当該部署にて継続的に検討。</p> <p>以上、自己点検活動は、年度末報告会を開催、全学的な理解を図るなどにより全学的な取り組み、PDCA サイクルとなる取り組みとなるための努力の段階といえる。</p>
次年度への課題	<p>1. 年報および評価報告会内容について、大学の自己点検活動となっているかの継続的評価</p>
学長からの評価	<p>教員の教育・研究活動については、それを自らが評価して改善していく PDCA サイクルによる自己点検評価が必須であると考えます。また、その結果を報告会等で共有することも、大学という有機体の前進のためには必要です。本委員会が引き続き自己点検評価活動を推進することを期待します。</p>

自己点検・評価資料

目 次

I.	学事歴	17
II.	2013年度開講科目一覧	19
III.	学生数・奨学金の採用状況	21
IV.	国家試験合格率	22
V.	就職・進学状況	23
VI.	2014年度入学試験結果	25
VII.	教員組織	26
VIII.	事務組織	27
IX.	研究等の活動	28
X.	組織図	31
XI.	会議の開催状況	32
XII.	委員会構成一覧	34
XIII.	委員会の活動報告	35
XIV.	図書館の利用状況	47
XV.	施設・設備の状況	48
XVI.	財務状況	50

I. 学事暦(助産研究科)

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等
4月		1	2	3	4	5	6	2日(火)13:00 入学式・新入生オリエンテーション 3日(水) 4日(木)～5日(金) 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス・健康診断 新入生修養会
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	23日(火)午前 始業ミサ、イースターの集い
	28	29	30					
5月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	13日(月) 14日(火)午後 基礎2年:マタニティサイクル独立助産実習開始(前半グループ) 合唱コンクール
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
6月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	17日(月) 17日(月) 17日(月) 21日(金) 基礎1年:マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ開始 教育1年:マタニティサイクル助産ケア統合実習開始 教育2年:臨床助産教育実習開始 基礎2年:マタニティサイクル独立助産実習終了(前半グループ)
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
7月	30	1	2	3	4	5	6	1日(月) 基礎2年:マタニティサイクル独立助産実習開始(後半グループ)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
8月				1	2	3	9日(金)	基礎2年:マタニティサイクル独立助産実習終了(後半グループ)
	4	5	6	7	8	9	10	16日(金) 基礎1年:マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ終了 教育1年:マタニティサイクル助産ケア統合実習終了
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	教育2年:臨床助産教育実習終了
	25	26	27	28	29	30	31	26日(月)～30日(金) 基礎1.2年、教育1年:補講期間・前期定期試験
9月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	2日(月) 夏期休暇開始
	15	16	17	18	19	20	21	27日(金) 夏期休暇終了
	22	23	24	25	26	27	28	27日(金) 教育2年:修了
	29	30						

学内授業期間	基礎1年次	4月5日(金)～6月 14日(金) 8月19日(月)～8月30日(金)	臨地実習期間	基礎1年次	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月17日(月)～8月16日(金) 5月13日(月)～6月21日(金)
	基礎2年次	4月 3日(水)～5月10日(金)		基礎2年次	独立助産実習(前半)	7月 1日(月)～8月9日(金)
	教育1年次	4月5日(金)～6月 14日(金) 8月19日(月)～8月30日(金)		教育1年次	独立助産実習(後半)	6月17日(月)～8月16日(金)
	教育2年次	4月 3日(水)～8月30日(金)		基礎・統合実習 I		
				教育2年次	臨床助産教育実習	6月17日(月)～8月16日(金)

I. 学事暦(助産研究科)

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等
10 月			1	2	3	4	5	9月30日(月) 基礎2年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ開始(1グループ)
	6	7	8	9	10	11	12	11日(金) 基礎2年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ終了(1グループ)
	13	14	15	16	17	18	19	15日(火) 基礎2年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ開始(2グループ)
	20	21	22	23	24	25	26	25日(金) 基礎2年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ終了(2グループ)
	27	28	29	30	31			28日(月) 基礎2年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ開始(3グループ)
11 月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	8日(金) 基礎2年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ終了(3グループ)
	10	11	12	13	14	15	16	基礎1年:演習、実習オリエンテーション
	17	18	19	20	21	22	23	18日(月) 基礎1年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ開始
	24	25	26	27	28	29	30	
12 月	1	2	3	4	5	6	7	8日(日) 創立記念日 教育1年:演習、実習オリエンテーション
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	16日(月) 教育1年:マタニティサイクル独立助産実習開始 17日(火)午後 学生クリスマスの集い 25日(水) キリスト降誕祭
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					30日(月) 基礎1年、基礎2年:冬期休暇開始
1 月			1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11	10日(金) 基礎1年、基礎2年:冬期休暇終了
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	24日(金) 教育1年:マタニティサイクル独立助産実習終了
	26	27	28	29	30	31		
2 月						1		
	2	3	4	5	6	7	8	3日(月) 教育1年:冬期休暇開始
	9	10	11	12	13	14	15	14日(金) 教育1年:冬期休暇終了
	16	17	18	19	20	21	22	21日(金) 基礎1年:マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ終了
	23	24	25	26	27	28		
3 月						1		
	2	3	4	5	6	7	8	4日(火)～5日(水) 修了前修養会
	9	10	11	12	13	14	15	13日(木) 修了・卒業感謝のミサ
	16	17	18	19	20	21	22	14日(金) 修了証書・学位記授与式
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

学内授業期間	基礎1年次 基礎2年次 教育1年次	9月30日(月)～11月15日(金) 2月24日(月)～3月7日(金) 9月30日(月)～12月27日(金) 1月14日(火)～2月21日(金) (金) 2月17日(月)～3月7日(金)	臨地実習期間	基礎1年次 基礎2年次 教育1年次	統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 独立助産実習	11月18日(月)～12月27日(金) 1月13日(月)～2月21日(金) 9月30日(月)～11月8日(金) 12月16日(月)～1月24日(金)
--------	-------------------------	--	--------	-------------------------	--------------------------	---

II. 2013年度開講科目一覧

【助産基礎分野】

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法 及び 修了要件
				必修	選択	講義	演習	実習	
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1		履修・展開科目は、選択科目以外の選択科目3単位から1単位以上を含む56単位を修得すること。なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合は、発展・展開科目は、選択科目3単位以上を含む1単位以上を修得すること。
		助産哲学・倫理 I	1	後	1		1		
		助産哲学・倫理 II	2	後		1	1		
		出産の文化	1	前	1		1		
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1	
		助産薬理学 I	1	前	1		1		
		助産薬理学 II	2	前	1		1		
		妊娠褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1		
		助産女性学	1	前	1		1		
		助産カウンセリング	1	後	1			1	
		健康教育論 I	1	前	1		1		
		健康教育論 II	2	前	1			1	
		助産研究法	1	後	1		1		
	助産機能	助産管理論 I	1	後	1		1		
		助産管理論 II	2	前	1		1		
		助産師教育論	2	前	1		1		
		助産師教育方法論	2	後		1	1		
		母子保健行政・財政論	1	後	1		1		
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前	1		1		
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケア I	1	通年	2		1	1	履修・展開科目は、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合は、発展・展開科目は、選択科目3単位以上を含む1単位以上を修得すること。
		マタニティサイクル助産ケア II	1	通年	2		1	1	
		マタニティサイクル助産ケア III	1	通年	2		1	1	
		ハイリスク助産学 I	1	後	1		1		
		ハイリスク助産学 II	1	後	1		1		
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1	
		独立助産実践概論	2	前	1		1		
		独立助産演習	2	前	1			1	
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習 I	1	前	2				
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習 II	1	前	2				
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習 III	1	前	2				
		マタニティサイクル助産ケア統合実習 I	1	後	6				
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				
		マタニティサイクル助産ケア統合実習 II	2	後	2				
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論 I	1	後	1		1		履修・展開科目は、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合は、発展・展開科目は、選択科目3単位以上を含む1単位以上を修得すること。
		子育て支援論 II	2	前後	①	1		1	
		子育て支援論演習	2	後		1		1	
		性教育 I	2	前	1		1		
		性教育 II	2	前後	②	1		1	
		性教育実習	2	後		1			
		ウイメンズヘルス I	1	後	1		1		
		ウイメンズヘルス II	2	前後	③	1		1	
		ウイメンズヘルス演習	2	後		1		1	
		国際助産学 I	2	前	1		1		
		国際助産学 II	2	前後	④	1		1	
		国際助産学実習	2	後		2			
	特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1	
合 計					53	11	26	15	23

【助産教育分野】

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件
				必修	選択	講義	演習	実習	
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1		
		助産哲学・倫理 I	1	後	1		1		
		助産哲学・倫理 II	1	後		1	1		
		出産の文化	1	前	1		1		
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1	単位付与対象科目
		助産薬理学 I	1	前	1		1		
		助産薬理学 II	2	前	1		1		
		妊娠褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1		
		助産女性学	1	前	1		1		単位付与対象科目
		助産カウンセリング	1	後		1		1	
		健康教育論 I	1	前	1		1		
		健康教育論 II	2	前	1			1	
	助産機能	助産研究法	1	後		1	1		単位付与対象科目
		助産管理論 I	1	後		1	1		
		助産管理論 II	1	前	1		1		
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1		
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1		
		マタニティサイクル助産ケア I	1	通年	2		1	1	
		マタニティサイクル助産ケア II	1	通年	2		1	1	
		マタニティサイクル助産ケア III	1	通年	2		1	1	
		ハイリスク助産学 I	1	後		1	1		
		ハイリスク助産学 II	1	後		1	1		
	マタニティサイクル助産ケア実践	独立助産実践概論	1	前	1		1		単位付与対象科目
		独立助産演習	1	前	1			1	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習 I	1	前	2				
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習 II	1	前	2				
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習 III	1	前	2				
		マタニティサイクル助産ケア統合実習	1	後	6				
発展科目	発展・展開	マタニティサイクル独立助産実習	1	後	6				単位付与対象科目
		子育て支援論	1	後		1	1		
		性教育	1	前		1	1		
		ウイメンズヘルス	1	後		1	1		
	国際助産学	1	前		1	1			
・展開科目	発展・展開	教育概論	1	後	2		2		単位付与対象科目
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	後	3	^①	2	1	
		教授学習法の理論と展開	1	後	3		2	1	
		教育評価	1	後	3		2	1	
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2		
		助産教育実習	2	前	2			1	
	臨床助産教育実習	2	前	2			1	1	
特別統合研究科目	助産教育課題研究	2	前	2			2		
合計				55	13	34	14	20	

III. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2013年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護栄養学部	看護学科		348	100 (4)	94 (7)	98 (4)	95 (2)	387 (17)	111.2%
	栄養学科		350	87 (0)	97 (0)	92 (2)	91 (1)	367 (3)	104.9%
	(うち編入生)		10	— —	— —	6 (0)	4 (0)	10 (0)	100.0%
小 計			698	187 (4)	191 (7)	190 (6)	186 (3)	754 (20)	108.0%
助产学研究院研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	20 —	19 —	— —	— —	39 —	65.0%
		助産教育分野	20	4 —	3 —	— —	— —	7 —	35.0%
	小 計		80	24 —	22 —	— —	— —	46 —	57.5%
看護大学院栄養学研究科	看護学専攻	ホスピス・緩和ケア看護学コース	8	2 (0)	2 (0)	— —	— —	4 (0)	50.0%
		公衆衛生看護学コース	4	2 (0)	2 (0)	— —	— —	4 (0)	100.0%
		精神看護学コース	4	0 (0)	0 (0)	— —	— —	0 (0)	0.0%
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	3 (0)	3 (0)	— —	— —	6 (0)	100.0%
		博士後期課程	6	1 (0)	0 (0)	0 (0)	— —	1 (0)	16.7%
	小 計		28	8 (0)	7 (0)	0 (0)	— —	15 (0)	53.6%
合 計			806	219 (4)	220 (7)	190 (6)	186 (3)	815 (20)	101.1%

※()内は男子学生の数

社会人学生数

(2013年5月1日現在)

所属	学 科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	6 (1)	5 (1)	8 (0)	6 (0)	25 (2)
	栄養学科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	小 計	6 (1)	5 (1)	9 (0)	6 (0)	26 (2)

※()内は男子学生の数

奨学金の種類と採用数

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月額	30,000円 50,000円	無利子貸与	4人
天使大学同窓会奨学金		年額	300,000円	無利子貸与	2人
日本学生支援機構 奨学金	第一種	月額	50,000円 80,000円	無利子貸与	7人
	第二種 (月額選択)	月額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	6人
北海道看護職員養成修学資金		月額	32,000円	道内特定施設に5年以上勤務の場合返還免除	5人
日本助産師会奨学金		月額	50,000円	無利子貸与	0人
合計					24人

IV. 国家試験合格率

国家試験合格率

学部・学科	国家試験の名称	受験者数(A)	合格者数(B)	合格率(%) B/A*100	全国合格率(%)
天使大学大学院 助産研究科	助産師国家試験	14人	14人	100.0%	96.6%
看護栄養学部 看護学科	看護師国家試験	90人	87人	96.7%	95.2%
看護栄養学部 看護学科	保健師国家試験	88人	82人	93.2%	88.8%
看護栄養学部 栄養学科	管理栄養士国家試験	86人	77人	89.5%	91.2%

V. 就職・進学状況

[就職希望者]

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	14	3	17	85.0%
	希望無しの者	3	0	3	15.0%
計(修了者数)		17	3	20	100.0%

[就職決定者]

分野	助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
決定数／決定率	14	3	17	100.0%

[地域別・就職別決定者]

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
地域別	道外	8	2	10	58.8%
	道内	6	1	7	41.2%
	市内(再掲)	(2)	(0)	(2)	(11.8%)
職種別	助産師	14	1	15	88.2%
	教員	0	2	2	11.8%
	上記以外	0	0	0	0.0%

2013年度求人件数・人数（2014年3月31日現在）

[看護職]

職種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
看護師	45	93	318	0	411	788	1,711	18,375	0	20,086
保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助産師	12	33	160	0	193	43	124	848	0	972
計	57	126	478	0	604	831	1,835	19,223	0	21,058

[栄養士職]

職種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
栄養士	22	38	9	0	47	57	193	130	0	323
管理栄養士	28	91	26	0	117	42	166	51	0	217
栄養教諭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	50	129	35	0	164	99	359	181	0	540

[一般職・その他]

職種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
一般	36	59	92	0	151	503	706	8,161	0	8,867
合計	142	311	604	0	915	1,431	2,896	27,564	0	30,460

注1 (市内)は道内の内数

注2 道内+道外+全国=合計

注3 全国は勤務先が道内・道外に限定されない場合

注4 若干名は3とカウントする

注5 保健師・助産師求人件数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

VI. 2014年度天使大学・大学院入学試験結果（2014年4月1日現在）

看護栄養学部

* () は、昨年度の数字です

◆看護学科

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	40	6	(7)	6	(7)	6	(7)	6	(7)	1.0
公募制推薦		63	(54)	63	(54)	34	(33)	34	(33)	1.9
社会人	37	14	(16)	14	(16)	4	(7)	3	(6)	3.5
一般		318	(306)	301	(302)	67	(64)	33	(43)	4.5
センター利用	10	179	(142)	179	(142)	35	(25)	17	(10)	5.1
総計		87	580	(525)	563	(521)	146	(136)	93	(99)
										3.9

◆栄養学科

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	42	4	(4)	4	(4)	4	(4)	4	(4)	1.0
公募制推薦		56	(50)	56	(50)	39	(38)	38	(38)	1.4
社会人	33	2	(3)	2	(3)	1	(0)	1	(0)	2.0
一般		108	(116)	107	(116)	36	(41)	29	(35)	3.0
センター利用	10	78	(94)	78	(94)	18	(18)	15	(9)	4.3
総計		85	248	(267)	247	(267)	98	(101)	87	(86)
										2.5

◆栄養学科（3年次編入）

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
		5	4	(5)	4	(5)	3	(5)	3	(5)
										1.3

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
前期	8	3	(4)	3	(4)	2	(3)	2	(3)	1.5
後期		1	(2)	1	(2)	1	(1)	1	(1)	1.0
総計		8	4	(6)	4	(6)	3	(4)	3	(4)
										1.3

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
前期	3	3	(2)	3	(2)	3	(2)	2	(2)	1.0
後期		0	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(1)	—
総計		3	3	(3)	3	(3)	3	(3)	2	(3)
										1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
後期		1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0
総計		2	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)
										1.0

大学院 助産研究科

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
基礎分野	15	推薦	10	(7)	10	(7)	10	(6)	10	(6)
		前期一般	11	(14)	10	(14)	7	(12)	7	(7)
		前期社会人	8	(7)	8	(7)	5	(6)	5	(4)
	5	後期一般	4	(2)	3	(2)	1	(2)	1	(2)
		後期社会人	0	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(1)
教野育分	10	前期	2	(4)	2	(4)	2	(4)	2	(4)
		後期	3	(0)	3	(0)	2	(0)	2	(0)
総計		40	38	(35)	36	(35)	27	(31)	27	(24)
										1.3

VII. 教員組織

教員組織一覧

(2013年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大 学 院	助産研究科	10人	2人	1人	1人	1人	15人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	31人
看 護 栄 養 学 部	看護学科	8人	5人	8人	4人	3人	28人
	栄養学科	8人	6人	5人	2人	5人	26人
	教養教育科	2人	4人	1人	0人	0人	7人
	計	18人	15人	14人	6人	8人	61人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	127人
合計		25人	16人	14人	7人	9人	234人

※1 合計数は兼任教員を除いた数

※看護栄養学研究科の教員数は看護栄養学部に含めている

専任教員年齢構成

(2013年5月1日現在)

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	計
助 産 研 究 科	教 授	1人	0人	2人	3人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	7人
		14.3%	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講 師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助 教	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	計	1人	0人	2人	3人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	9人
		11.1%	0.0%	22.2%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助 手	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
看 護 栄 養 学 部 ・ 看 護 栄 養 学 研 究 科	小計	1人	0人	2人	3人	3人	0人	0人	1人	0人	0人	10人
		10.0%	0.0%	20.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100%
	教 授	1人	5人	5人	4人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	17人
		5.9%	29.4%	29.4%	23.5%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0人	0人	2人	1人	1人	10人	1人	0人	0人	0人	15人
		0.0%	0.0%	13.3%	6.7%	6.7%	66.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講 師	0人	0人	0人	1人	3人	4人	3人	3人	0人	0人	14人
		0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	21.4%	28.6%	21.4%	21.4%	0.0%	0.0%	100%
	助 教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	4人	0人	0人	6人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100%
	計	1人	5人	7人	6人	6人	14人	6人	7人	0人	0人	52人
		1.9%	9.6%	13.5%	11.5%	11.5%	26.9%	11.5%	13.5%	0.0%	0.0%	100%
	助 手	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	3人	3人	8人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	100%
小計	1人	5人	7人	6人	6人	14人	7人	8人	3人	3人	60人	
	1.7%	8.3%	11.7%	10.0%	10.0%	23.3%	11.7%	13.3%	5.0%	5.0%	100%	
合計	2人	5人	9人	9人	9人	14人	7人	9人	3人	3人	70人	
	2.9%	7.1%	12.9%	12.9%	12.9%	20.0%	10.0%	12.9%	4.3%	4.3%	100%	

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2013年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者		退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	1人	0人	0人	1人	1人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
看護学科	3人	3人	0人	0人	2人	0人	0人	3人	1人	4人	1人	3人
栄養学科	3人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	2人
教養教育科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人
計	7人	4人	0人	1人	3人	5人	0人	3人	2人	4人	1人	5人

VIII. 事務組織

(2013年5月1日現在)

区分	部門	専任職員	うち管理職		常勤嘱託員	臨時職員	派遣職員	その他	計
			専任職員	うち管理職					
法人業務系	法人事務局長	1	1	0	0	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	0	0	0	0	1
大学業務系	事務局長	1	1	0	0	0	0	0	1
	総務課	7	1	7	8	0	0	0	22
	学務課	5	1	4	3	0	0	0	12
	図書情報課	4	1	3	0	0	0	0	7
									0
	計	17	4	14	11	0	0	0	42

※法人事務局長、事務局長は兼務

IX. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	代表者名	研究課題名	種別
1	看護学科教授 茎津 智子	小中学校教員の子どものグリーフに関する認識とグリーフケア	基盤C 新規採択
4	看護学科准教授 針金 佳代子	3歳児と母親が健康な食生活を形成していくための家族支援プログラムの開発	基盤C 継続採択
9	栄養学科准教授 鈴木 純子	CD36欠損者の高糖質・低脂質食による代謝変化に関する研究	基盤C 継続採択
10	教養教育科准教授 堀井 泰明	徳としてのケアリングを基盤とする看護倫理学の構築	基盤C 継続採択

特別研究費の助成状況

	氏名	研究課題名
1	看護学科・教授 新谷 恵子	学生に自らの知識を組み合わせそれを応用する練習をさせる教育技法の開発—(TBL:team-based learning)を活用した教育方法の検討—
2	看護学科・准教授 草薙 美穂	若年の母親への育児支援－虐待予防のためのFeeding Education－
3	栄養学科・教授 荒川 義人	北海道産ハスカップ、マタタビ、サルナシおよびアロニアの果実に組まれるシテインプロティアーゼの構造および機能解析に関する研究
4	栄養学科・教授 大久保 岩男	本学大学院で養成する高度専門職業人に共通するコンピテンシーの明確化～両専攻共通科目の提言に向けて～
5	栄養学科・教授 賀来 亨	摂食回復支援食と通常食の組織学的検討
6	栄養学科・准教授 金澤 康子	ハマナス茶の創製と食後血糖値上昇抑制効果の検討
7	栄養学科・准教授 鈴木 純子	生活習慣病の予防・改善のための指導力を養う卒後教育プログラムの構築とその評価－e-ラーニングを活用した卒後教育の可能性
8	栄養学科・助教 長谷川 めぐみ	Listeria monocytogenesのバイオフィルム形成能力および消毒薬に対する耐性
9	栄養学科・助教 松下 真美	香辛料などの食品成分によるヒト褐色脂肪組織の活性化と肥満予防
10	栄養学科・助手 木田 春代	幼児期における野菜栽培が幼児の野菜嗜好ならびに母親が行う食教育に及ぼす影響
11	教養教育科・准教授 相内 泰三	電子版教育ポートフォリオの運用可能性に関する研究
12	教養教育科・准教授 川口 雄一	遠隔利用デジタル動画教材の配信・再生連携と教材の作成

受託研究等

	代表者名	研究課題名	種別
1	栄養学科・教授 荒川 義人 栄養学科・教授 山部 秀子 栄養学科・准教授 鈴木 純子	ホクレン農業協同組合連合会「平成25年度牛乳・乳製品需要拡大事業」における「食生活診断キャラバン」実施助成金	奨学寄付
2	栄養学科・教授 荒川 義人 栄養学科・教授 大久保 岩男	道内のモデル素材を用いた機能性の検証	受託研究
3	栄養学科・教授 荒川 義人	札幌黄の生食時及び加熱加工時の品質特性の検証	受託研究
4	栄養学科・教授 久保 ちづる	道産の機能性リッチな食素材を活用し、生活習慣病を改善する料理研究の促進	奨学寄付
5	栄養学科・教授 高島 郁夫	アンチエーティング機能を付加した新規ヨーグルトを創出するための牛初乳からの乳酸菌の探索と製品開発	受託研究
6	栄養学科・准教授 清水 真理	健康づくり関連団体との協働による職域分野における生活習慣病予防・改善の取り組みの効果と支援プログラムの検討	受託研究
7	栄養学科・助教 松下 真美	健康飲料の褐色脂肪組織に及ぼす影響の検討	受託研究

F D・S Dの実施状況

分類	日時	テーマ	内容
F D 大研 修全 会体 (2013年8月23日 (金)	第2回シラバス（授業計画書）を作ってみよう－教育評価を中心にして	講師：北海道大学高等教育推進機構 教授 細川 敏幸氏
	2014年3月5日 (水)	カリキュラムの運用と授業方略	講師：北海道大学高等教育推進機構 教授 細川 敏幸氏
F 看D 護研 栄修会 栄養学 研究科 (2014年1月31日 (金)	質的研究の基本と実践－人と人を結ぶ視点を得るために	講師：札幌医科大学保健医療学部 准教授 道信 良子氏
	2014年2月13日 (木)	高度専門職業人養成のための大学院教育課程（カリキュラムデザイン）構築に向けて～北海道大学保健科学院の実際～	講師：北海道大学大学院保健科学研究院 教授 小笠原 克彦氏
S D 研修会	2013年9月6日 (金)	①労働法の改正について ②2012年度監事監査報告 ③ブランドを広報する -天使大学 ブランディングの現状とこれから-	①講師：社会保険労務士 北島 春雄氏 ②講師：土産田 照夫監事 ③講師：渡邊 泰央入試広報室員

公開講座の実施状況

日時	テーマ	内容
2013年8月22日（木） ～ 2013年9月19日（木）	いのちみつめて －我が家で心地良く毎日を楽しく健康に生きる知恵－	北海道薬科大学との連携事業。参加登録者は定員80名に対して74名、受講者の延べ人数は267名でした。

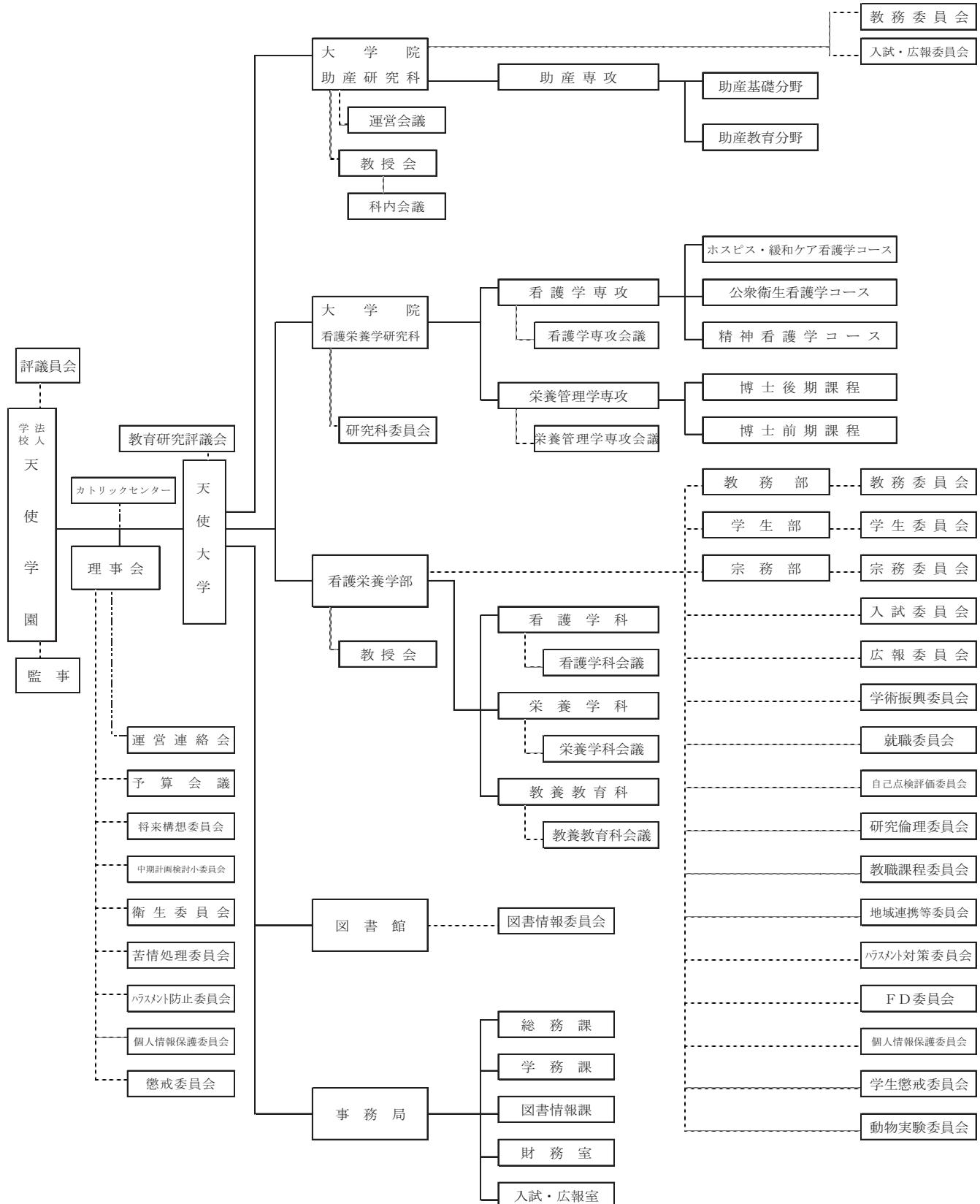
その他の活動

分類	活動内容
東日本大震災復興支援プロジェクト	<p>① ボランティア活動支援 長期休暇を利用し、延べ17名の学生が宮古市、気仙沼市、釜石市、南三陸町において、傾聴ボランティアや瓦礫の撤去等に携わりました。</p> <p>② 報告会および講演会の開催 2014年1月14日（火）に、被災地にてボランティア活動に従事した学生の報告会を実施しました。</p> <p>③ 被災地用レシピ集の発行 東北の食材を用いたアレンジレシピブック「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピ～心が和む折り紙を添えて」を2013年6月に発刊しました。</p> <p>④ 天使祭への出店 天使祭の一般公開日である2013年6月16日（土）に本プロジェクトのブースを設けて、今までの活動を掲示したパネル展示、被災地の産物販売、アレンジレシピ集の中から料理の試食会を行いました。</p>
東区健康づくり公開リレー講座	札幌大谷大学、北海道体育大学校および札幌市東区との地域連携の記念事業として、「健康」をテーマに区民向けの公開講座を2013年10月22日から11月5日の間に計3回、行いました。
コープさっぽろとの連携	産学連携プロジェクトとして料理レシピの共同開発、イベントへの参加、食品表示検定試験等を協力して実施。
レシピブックの発行	本学の看護学科および栄養学科学生によるレシピ集の作成については、4年次生46名が参加し、「天使大学のレシピBook vol. 2 ～学生から一人暮らしのあなたに贈る健康レシピ～」が完成しました。

X. 組織図

学校法人天使学園 管理運営組織図（2013年4月1日）

天使大学大学院 助産研究科
天使大学大学院 看護栄養学研究科
天 使 大 学 看護栄養学部



XI. 会議の開催状況

助産研究科教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2013年5月15日（水）	[審議事項] 1. 2013年度授業科目開講時期の一部変更について 2. 2014年度助産研究科学生募集要項について 3. 大学院学則の一部改正による下位規程の改正について [報告事項] 1. 大学院学則の一部改正について 2. 2013年度助産研究科教授会の構成員及び教授会の成立要件の変更について
2	2013年5月15日（水）	[審議事項] 1. 2013年度授業科目開講時期の一部変更について 2. 2014年度助産研究科学生募集要項について 3. 大学院学則の一部改正による下位規程の改正について [報告事項] 1. 大学院学則の一部改正について 2. 2013年度助産研究科教授会の構成員及び教授会の成立要件の変更について
3	2013年6月21日（金）	[審議事項] 1. 専任教員の体制について 2. 専任教員の募集大綱について 3. 2013年度第1回F D研修会の開催について 4. 卒業生への就職ガイダンスについて 5. 事務局体制の整備について 6. その他 [報告事項] 1. 平成25年度「看護系大学教員養成機能強化事業」の申請について
4	2013年7月19日（金）	[審議事項] 1. 専任教員の体制について 2. 専任教員の募集大綱について 3. その他 [報告事項] 平成25年度「看護系大学教員養成機能強化事業」の申請について
5	2013年8月21日（水）	[審議事項] 1. 復学願の許可について 2. 退学願の許可について 3. 天使大学大学院助産研究科教員の採用及び昇任の選考に関する規程の一部改正について 4. 教員選考委員会規程の一部改正について [報告事項] 1. J I C A国際協力機構の「母子保健（B）」コースの受け入れについて 2. 今後の宗務行事予定について 3. その他
6	2013年9月18日（水）	[審議事項] 1. 2013年度 助産教育分野の修了認定について 2. 2013年度 非常勤講師の委嘱取消について [報告事項] 1. 教育研究費および特別研究費等各種経費の銀行振込について
7	2013年9月26日（木）	[審議事項] 1. 2014年度 助産基礎分野推薦入学試験の合否判定について 2. 2015年度 天使大学院助産研究科入学試験日程について
8	2013年9月30日（月）	[審議事項] 1. 2013年度 助産教育分野2年成績評価の修正について

回	開催年月日	審議・報告事項
9	2013年10月23日（水）	[審議事項] 1. 2014年度 助産研究科年次教育計画（案）について 2. 2014年度 助産基礎分野一般入学試験及び社会人入学試験並びに助産教育分野入学試験前期試験の合否判定について 3. 教員選考委員会の審査委員の選出について [報告事項] 1. 2013年 教職員修養会の実施について 2. 日本助産評価機構 助産専門職大学院認証評価について
10	2013年11月14日（木）	[審議事項] 1. 2013年度 助産教育分野における入学後の単位付与について 2. 2014年度 学事暦について 3. 専任教員の採用に係る募集大綱について
11	2013年12月18日（水）	[審議事項] 1. 2014年度 非常勤講師の委嘱について [報告事項] 1. 学長候補者推薦委員会について 2. 日本助産評価機構の認証評価報告書（原案）について 3. その他
12	2014年1月29日（水）	[審議事項] 1. 2014年度助産基礎分野一般入学試験および助産教育分野入学試験後期試験の合否判定について [報告事項] 1. 2013年度第2回F D研修会の開催について 2. 2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について 3. キャンパスハラスメントに関する講演会のアンケート結果について
13	2014年2月26日（水）	[審議事項] 1. 休学願・退学願の許可について 2. 天使大学大学院研究生の出願について 3. 募集期間の延長について [報告事項] 1. 今後の宗務行事予定について 2. 2014年度学事暦について（変更） 3. 2013年度天使大学 学位記・修了証書授与式 実施要領（案）について
14	2014年3月19日（水）	[審議事項] 1. 2014年度非常勤講師の委嘱について 2. 2014年度授業科目開講期の一部変更について 3. 臨床専任教員の雇用契約期間の更新について [報告事項] 1. 2014年度開講科目における担当教員について 2. 2014年度入学式実施要領（案）について
臨時1	2014年3月5日（水）	[審議事項] 1. 2013年度助産基礎分野の修了判定について

XII. 委員会構成一覧

2013年度 校務分掌 委員会構成一覧

教育研究評議会		学長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長 助産研究科教務委員長						
常設委員会	教務委員会	菅原	教務部長：菅原 看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長 看護：大野 栄養：山口 教養：日時	8	2年	学務課		
	学生委員会	山 部	学生部長：山部 看護：柴田・石川 栄養：金澤・岩渕 教養：川口	6	2年	学務課		
	宗務委員会	沢	宗務部長：沢 看護：ケン・スレイマン 栄養：岡部・松下 教養：小原 助産：今崎 事務局：菊池・窪田	8	2年	学務課		
	図書情報委員会	大久保	図書館長：大久保 看護：久賀・鹿内 栄養：清水・長谷川 教養：日時 助産：津田 事務局：平野	8	2年	図書情報課		
	入試委員会	荒 川	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長 看護：針金 栄養：西 教養：(田島) 事務局：白石	7	2年	総務課		
	広報委員会	鈴木(純)	看護：吉田(礼)・鈴木 栄養：勝野・吉田(真) 教養：堀井 事務局：白石	6	2年	総務課		
	自己点検評価委員会	茎 津	看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長 看護：小島 栄養：西 教養：(田島) 助産：(園生)	11	2年	総務課		
	F D 委員会	田 島	看護：北村 栄養：佐藤 教養：小原 助産：本宿	5	2年	総務課		
	学術振興委員会	高 島	看護：新谷 栄養：賀来 教養：小原 助産：今崎	5	2年	図書情報課		
	地域創発等委員会	山 口	看護：針金 栄養：岡部 教養：川口 助産：津田	5	2年	学務課		
	就職委員会	相 内	看護：草薙・島 栄養：久保・百々瀬 教養：相内	5	2年	学務課		
	教職課程委員会	伊 藤	教職科目担当：山部・百々瀬・岩渕・相内	5	2年	学務課		
	研究倫理委員会	堀 井	助産研究科長、看護栄養学研究科長 看護：茎津 栄養：武藏 教養：堀井 学長指名：鈴木(純)	6	2年	総務課		
	キャンパス・ハラスマント委員会	谷 井	学生部長、看護：谷井 栄養：山部 教養：伊藤 助産：本宿 事務局長 職員：平野	7	2年	総務課		
特設委員会	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護： 栄養： 教養： 助産：園生	5	2年	学務課		
	個人情報保護委員会	その都度	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長	7	2年	総務課		
看護：学生支援教員		1年： ◎大野・谷井・吉田(礼)・久賀・北村・石川・臺野 3年： ◎柴田・新谷・針金・田中	2年： ◎菅原・島・鹿内・鈴木・小澤・坂野・富川 4年： ◎草薙・茎津・小島・若山・原田					
栄養：学生支援教員		1年： ◎勝野・久保・清水・岩渕・吉田(真)・高桑 3年： ◎金澤・佐藤・松下・長谷川・木田	2年： ◎西・高島・山部・岡部・百々瀬・和田 4年： ◎鈴木(純)・大久保・山口・峯岸・白幡・古川					
学長直轄アドバイザリーミーティング	震災復興支援プロジェクト	リーダー 目 時	看護：小澤・田中 栄養：百々瀬・高桑 事務局：高山・西村・松田					
	大学レシピワーキング	リーダー 山 部	看護：臺野 栄養：岡部・白幡・長谷川・和田・松下					
後援会講演ワーキング			看護：新谷・原田 栄養：山部・佐藤・松下 教養：川口 事務局：総務課					

大学院看護栄養学研究科の科長・専攻主任

研究科長：大久保 岩男	看護学専攻主任：吉田 礼維子	栄養管理学専攻主任：佐藤 香苗
-------------	----------------	-----------------

◎ 大学院助産研究科の科長・委員会等

研究科長：園生陽子			
区分	委員会等名	委員長等	委 員 員
常設機関	運営会議	学 長	研究科長、教授職
	研究科会議	研究科長	教授会構成員
常設機関	教務委員会	園 生	(講義基礎)津田 (講義教育)園生 (実習)本宿 (学生・就職)今崎
	入試広報委員会	津 田	園生、本宿、今崎

◎ 理事会設置の委員会

区分	委員会名	委員長	委 員 員	人数	任期	担当事務局
常設機関	運営連絡会	理事長	学長、副理事長(2名)、常務理事(総務担当理事)、財務担当理事、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、学内評議員：菅原、荒川、沢、園生、佐保	12	1年	総務課
	将来構想委員会	理事長	学長、総務担当理事、財務担当理事、宗務部長、図書館長、研究科長(2)、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長、教職員で理事・評議員：菅原、荒川、沢、園生、佐保	12		
	衛生委員会	学 長	産業医：樟本(天使病院)、看護：若山 栄養：武藏 教養：川口 事務局：豊島(保健師)加藤	7		
	苦情処理委員会	委 員 互 選	理事長指名：教員=前田・荒川 職員：佐保 教授会選考：・山部・小原 職員会議選考：鈴木	7		
	代理委員会	その都度互選	理事長指名：教員=吉田(礼) 職員：安田 教授会選考：・ 職員会議選考：渡邊	5		
	懲戒委員会	理事長指名	理事長が任命する5名	5		
	ハラスマント防止委員会	理事長	(理事)菊地・曾我、山本、菅原、(教員)前田、堀井 (職員)：白石	7		
	個人情報保護委員会	互 選	理事長、学長、常務理事、理事(理事会選出)：菅原、事務局長	5		
	カトリックセンター	理事長任命	センター長：沢 カトリック司祭、常務理事、宗教教育担当者	4		

XIII. 委員会の活動報告

2013年度 教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：園生 陽子 委 員：津田万寿美、今崎裕子、本宿美砂子、山岡久美子 計5名
委員会開催数	13回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導教員の委嘱について ・授業アンケートの実施について ・前期評価日程について ・前期定期試験時間割について ・臨床助産教育実習施設について ・基礎実習施設担当教員の配置について ・非常勤講師の新規委嘱について ・新規教員の募集大綱について ・特任教授の委嘱について ・学籍異動について ・「助産教育分野」の修了認定について ・2014年度 教育計画(案)について ・統合実習Ⅰについて ・後期試験日程について ・後期時間割について ・特別講師の委嘱について ・科目等履修生受付期間について ・日本助産評価機構による認証評価対応について ・2014年度 学事歴(案)について ・2014年度 実習施設(案)について ・2014年度 科目責任者および科目担当について ・2014年度 予算案について ・基礎分野「最終試験」について ・2014年度 非常勤講師について ・2014年度 授業概要(シラバス)について ・2014年度 学籍異動について ・天使大学大学院研究生の出願について ・後期再試験日程について ・「助産基礎分野」修了認定について ・2014年度 授業科目担当者一覧 ・2014年度 オリエンテーションスケジュールについて ・2014年度 会議日程について 	

[主な報告事項]

- ・2013年度 合唱コンクール実施要領について
- ・統合実習施設開拓状況について
- ・助産教育分野の実習について
- ・「防犯対策と護身術」講座について
- ・実習前ミサについて
- ・基礎実習カンファレンス日程について
- ・国際助産学実習について
- ・JICA研修生受け入れについて
- ・就職ガイダンスについて
- ・「看護系大学院教員養成機能強化事業」の申請について
- ・臨床指導者会議のプログラム・役割について
- ・宗務行事予定について
- ・全助教ファーストステージ研修「助産師教育実習」について
- ・「2014年度 オリエンテーション合宿」について
- ・統合実習Ⅰの実習前演習について
- ・「特別統合課題研究」の提出締切について
- ・就職状況について
- ・発展展開科目時宗および演習について
- ・JICAプログラムについて
- ・国家試験受験におけるスケジュールについて
- ・退学・休学の日程確認
- ・日本学生支援機構奨学金の返還免除候補者について
- ・学生生活満足度調査実施について
- ・2014年度 臨床指導者会議日程について

2013年度 入試広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：津田万寿美 委員：園生陽子、本宿美砂子、今崎裕子 計4名
委員会開催数	4回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度 助産研究科学生募集要項について ・2013年度 助産研究科入学試験問題出題者について ・2013年度 助産研究科広報活動計画について 　　オープンキャンパスを含む ・本学学生への助産研究科説明会について ・助産研究科 雑誌等の広告について ・助産研究科パンフレットについて ・2013年度 助産研究科推薦入試合否判定について ・2014年度 助産研究科入学試験日程について ・2013年度 助産研究科ミニオープンキャンパスおよびオープンキャンパスについて ・2013年度 助産研究科ミニオープンキャンパスおよびオープンキャンパスの評価と今後の課題について ・2014年度 助産研究科パンフレットについて ・2013年度 看護系大学等への訪問と評価について ・2014年度 助産研究科 推薦入学試験の合否判定について ・2014年度 助産研究科 前期入学試験の合否判定について ・2014年度 助産研究科 後期入学試験の合否判定について ・2014年度 助産研究科広報活動について ・2014年度 助産研究科パンフレットについて 	

[主な報告事項]

- ・助産研究科の写真について

2013年度 宗務委員会活動報告

委員会組織	委員長：沢 禮子 委 員：ケン・スレイマン、今崎裕子、岡部哲子、松下真美、小原 琢、 菊池史恵、窪田公香 計8名
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度イースターの集いについて ・2013年度行事担当者役割について ・チャペルアワーの伴奏について ・毎週のミサについて ・予算の執行について ・2013年度イースターの集いの反省について ・看護学科自己点検委員会からの質問について ・後期のミサについて ・新規講演会の提案について ・行事日程について ・前期修了卒業感謝ミサについて ・教職員修養会の日程変更について ・クリスマスの集いの配布物について ・2014年度学事暦について ・教職員修養会について ・死者追悼ミサについて ・2014年度予算編成方針 ・創立記念のミサについて ・クリスマスミサについて ・修了・卒業にあたっての感謝ミサ ・教職員修養会の反省について ・今後のミサの日程について ・2014年度予算検討事項 ・2014年度イースターの集いについて ・2014年度アッセンブリー・アワ一年間予定表について ・教職員退職感謝ミサについて 	

[主な報告事項]

- ・聖書を英語で読むクラスについて
- ・教職員修養会について
- ・修了・卒業のミサの施設貸与依頼完了報告
- ・チャペルの側壁工事について
- ・チャペル側壁工事完了報告
- ・カトリックセンターの本の整理について
- ・チャペルの絵画について
- ・カトリックセンターの図書について
- ・カトリックセンターのボランティアについて
- ・カトリックセンター報告
- ・ツリーポン式の開始時間変更について
- ・クリスマス献金報告
- ・予算について
- ・カトリック医療学生セミナーについて

2013年度 図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：大久保岩男 委 員：草薙美穂(鹿内あずさ先生と10月交代)、久賀久美子、清水真理、 長谷川めぐみ、日時 光紀、津田万寿美、平野敦子 計8名
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
[主な審議事項]	
<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度活動計画について：本学機関リポジトリ構築など ・後援会助成及び学生購入希望図書・雑誌の選定、雑誌の新規購読について ・紀伊國屋書店見計らい図書(キノコレ)の選定分野および出版社の再選考について ・学生からの洋雑誌貸出希望について ・過年度研究費図書の除籍・廃棄ないしは図書館移管希望について ・Facebook等の図書館広報への活用について ・情報処理室利用に関するアンケート調査(結果報告)と課題について ・メディカルオンライン導入の是非について ・2013年度後期図書館開閉館予定表(案)について ・有線LAN導入の追加工事(7号館3階)及び図書館内無線LAN域設定について ・本年度予算計上の院生学習室助産研究科用および図書館内学生用端末の取替について ・洋雑誌の継続購読見直しと購読料高騰への対応について ・大学基準協会の評価結果に対する本委員会の対応について ・2014年度図書館および情報処理室活動計画(案)および予算内訳書(案) ・新規購入雑誌と洋雑誌の次年度継続購読の決定について ・本学リポジトリの構築について：共用リポジトリ利用申請、愛称の公募、管理運用規程の制定について ・2014年度図書館前期(4月～9月)開閉館予定について(案) ・学内LAN掲示板を利用した施設管理について(案) ・自己点検・評価用年報原稿(案)について 	
[主な報告事項]	
<ul style="list-style-type: none"> ・2012年度図書資料費執行状況(結果報告)及び2013年度図書資料費執行状況(月次報告) ・2013年度図書資料費予算配分について ・受贈図書の選定について 退職教員の移管図書について ・新年度配付ないしは学内LAN掲示板掲載資料：2013年度受入雑誌リスト、2012年度後援会助成図書資料一覧 ・天使祭期間の図書館一般開放について(報告) ・紀伊國屋書店見計らい本『キノコレ2』について ・北海道地区大学図書館協議会総会の開催について(報告) ・サーバーソフト改善作業のためのサーバー停止について：2013年12月24日9:00～12:00 教職員修養会開催中 ・2013年度蔵書点検及び書架移動の実施について 	

2013年度 自己点検評価委員会活動報告

委員会組織	委員長：茎津智子 委 員：園生陽子、大久保岩男、前田明子、荒川義人、田島忠篤、小島悦子、 西 隆司、佐保末男 計 9名
委員会開催数	6回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2013年度活動方針・活動内容について・ 2012年度年報の作成について・ 2013年度年報の作成について・ 大学評価結果の努力課題への取り組み状況の確認について・ 自己点検評価委員会の位置づけと役割について・ 内部質保障システムの確立について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2012年度年報の進捗状況について・ 助産研究科における認証評価の進捗状況について・ 日本助産評価機構への評価報告書の提出について・ 助産研究科の認証評価委員による現地調査について	

2013年度 FD委員会活動報告

委員会組織	委員長：田島忠篤 委 員：北村育子、佐藤香苗、小原 琢、本宿美砂子 計 5名
委員会開催数	9回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・2013年度活動方針・活動内容について・2013年度第1回FD研修会について・2013年度第1回FD研修会のアンケート結果について・授業評価アンケートの活用について・2013年度第2回FD研修会について・2014年度活動計画および予算について・2013年度事業報告および活動のまとめについて・授業概要について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・2012年度第2回FD研修会について・教務委員会からの要望について・講師との打ち合わせ結果について	

2013年度 学術振興委員会活動報告

委員会組織	委員長：高島郁夫 委 員：新谷恵子、賀来 亨、今崎裕子、小原琢	計 5 名
委員会開催数	10回	
審議・報告事項		
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期研究報告会について ・2013年度活動計画について ・競争的外部資金獲得のための情報収集と提供について：科研費説明会や講演会など ・研究環境整備、特に若手研究者の育成(助手の待遇改善)について ・紀要の年2回発行と学内用冊子体作成について ・機関リポジトリの導入に伴う掲載情報について ・天使大学紀要第14巻の作成について：第14巻第1号査読状況、第2号原稿募集の案内 ・後期研究報告会の案内及び実施要領について ・本学リポジトリ収録コンテンツの申請項目について ・後期研究報告会の進行について(大学ホームページに掲載済) ・紀要の年2回発行の見直しについて ・国立情報学研究所共用リポジトリの利用申請について：収録コンテンツ10項目提出 ・2014年度学術振興委員会活動計画(案)について ・2014年度学術振興委員会予算(案)について ・紀要第14巻第1号の掲載可否の判定について ・投稿規程改正案の上程について ・「投稿および査読に関する申し合わせ事項」改訂について ・執筆要領、審査留意事項の見直しについて ・紀要第14巻第2号の査読委員と投稿・査読状況 ・機関リポジトリ管理運用規程(案)について ・自己点検・評価用年報原稿について 		
<p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度活動計画及び予算について ・紀要第13巻第2号の発刊及び第14巻第1号の原稿募集について ・2013年度課題への取り組みについて ・紀要第13巻第2号への掲載可否について ・紀要第14巻第1号への投稿申込状況、査読及びCiNii登録・掲載(2013年12月末実施)について ・紀要第14巻第2号への投稿状況について ・北海道大学リサーチ・アドミニストレーター教育プログラムについて ・紀要第15巻第1号の原稿募集案内について ・後期研究報告会の司会進行の確認について 		

2013年度 地域連携等委員会活動報告

委員会組織	委員長：山口敦子 委員：針金佳代子・岡部哲子・川口雄一・津田万寿美 計5名
委員会開催数	11回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について ・2013年度委員長不在時の委員長代理について ・2013年度東区役所と本学との年間連携事業の把握・報告書について ・2013年度地域・他大学と本学との年間連携事業の把握・報告書について ・2013年度北海道薬科大学との連携事業について ・2013年度東区4者連携事業について ・2013年度東区健康づくり公開リレー講座について ・平成26年度ほっかいどう学インターネット講座の参加について ・2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案・ポスターについて ・2014年度予算（案）・活動計画書（案）について ・2013年度自己点検評価について ・その他 <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度活動計画および予算について ・2012年度自己点検・年報について ・2013年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座進捗状況について ・2013年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座実施・報告について ・2004～2012年度に本学で開催した講演会および公開講座について ・2013年度夕張地域医療体験について ・2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案について ・平成26年度道民カレッジ連携講座前期分申込、名義後援願について ・2013年度東区4者連携事業について ・2013年度東区健康づくり公開リレー講座実施・報告について ・2013年度東区役所との連携事業活動報告書の提出について ・2014年度予算ヒアリングについて ・その他 	

2013年度 研究倫理委員会活動報告

委員会組織	委員長：堀井泰明 委 員：園生陽子、大久保岩男、茎津智子、武藏学、鈴木純子 計 6 名
委員会開催数	8回
審議・報告事項	

[主な審議事項]

- ・書類提出締切日、委員会開催日について
- ・研究審査申請書審査について（審査件数 25 件）
- ・研究倫理委員会のメールアドレス新規作成について
- ・委員会構成メンバーの外部委員導入について

[主な報告事項]

- ・「利益相反自己申告書」の説明会開催について
- ・栄養学科卒業研究に関わる研究審査について（審査件数 5 件）

2013年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

委員会組織	委員長：谷井康子 委 員：山部秀子、伊藤進、本宿美砂子、佐保末男、平野敦子 計 6名
委員会開催数	8回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・2013年度活動方針・活動内容について・キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートについて・キャンパス・ハラスメント申込書(申立書)について・講演会の開催について・ハラスメント申立時の手続きについて・2014年度活動計画と予算について・2013年度活動報告について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・2012年度活動報告・学生委員の募集およびガイダンスの実施について・講演会のアンケート結果について・2013年度学生委員について	

XIV. 図書館の利用状況

2013年度入館者統計(人数)

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,568	1,947	2,270	2,018	1,218	1,118	1,735	1,568	941	1,052	397	79	15,911
栄養学科	861	909	794	1,314	278	324	616	598	369	632	295	210	7,200
助産研究科	152	129	84	36	67	44	91	89	30	18	30	21	791
看護学専攻	42	53	42	32	28	23	23	20	36	29	26	31	385
栄養管理学 専攻	1	2	6	12	3	4	14	6	2	6	3	3	62
科目等履修生	1	3	1	3	3	0	3	0	2	0	0	0	16
教職員	222	200	172	183	148	171	220	178	120	130	102	99	1,945
学外者	45	60	57	70	45	43	49	43	14	32	23	16	497
合計	2,892	3,303	3,426	3,668	1,790	1,727	2,751	2,502	1,514	1,899	876	459	26,807

2013年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	889	1,037	1,358	888	1,047	1,186	1,435	1,012	682	366	231	86	10,217
栄養学科	404	565	510	653	226	206	476	466	235	135	108	49	4,033
助産研究科	198	196	138	76	102	60	128	174	68	34	35	46	1,255
看護学専攻	84	111	64	64	46	35	61	33	47	59	43	41	688
栄養管理学 専攻	9	12	19	21	21	24	43	25	25	17	29	19	264
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	193	154	152	163	136	162	256	212	142	149	138	89	1,946
学外者	3	16	3	3	1	5	7	3	3	9	6	0	59
合計	1,780	2,091	2,244	1,868	1,579	1,678	2,406	1,925	1,202	769	590	330	18,462

XV. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比 (単位 : m²)

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差 (基準外を除く)
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(m ²)	備考
1号館	1976 (S51)	35	937.76	2階建
2号館	1995 (H 7)	16	707.43	2階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	48	1,977.01	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	40	2,429.06	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	31	396.27	2階建
6号館	2000 (H12)	11	2,674.91	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	9	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	7	1,855.69	4階建 (耐震構造)
体育館	1976 (S51)	35	736.52	
中沼グランド更衣室	1992 (H 4)	19	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・ 学生学習室等	室数	総面積 (m ²)	専用・ 共用の 別	収容 人員 (総数)	学生総 数	在学生1 人当り面 積(m ²)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	754	2.01	看護栄養学研究科と 共用
	演習室	12	382	共用	221	805	0.52	大学院と共に用
	学生学習室	2	288	共用	160	754	0.38	
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	2	272	共用	88	11	24.72	助産研究科と共に用
助産研究科	講義室	2	227	専用	135	51	4.45	
	学生学習室	1	246	共用	82	62	3.96	看護栄養学研究科と 共用
体育館 (講堂)		1	737					

学部の学生用実験・実習室の面積・規模

分類	室名	収容人数	面積(m ²)	1人当り面積(m ²)
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	257	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
実験・実習室(共通)	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
情報処理室	和室	30	69	6.90
	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		767	2,477	3.32

大学院の学生用実験・実習室の面積・規模

分類	室数	総面積(m ²)	収容人数(総数)	収容人員1人当りの面積(m ²)	使用研究科等	備考
実習室	19	2,477	747	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共に
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	20	2,651	787	3.37	—	—

XII. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表 (%)

	比率	算式	2013年度	全国平均
1	自己資金構成比率	<u>自己資産</u> 総資金	83.1	85.3
2	消費収支差額構成比率	<u>消費収支差額</u> 総資金	4.2	△15.4
3	基本金比率	<u>基本金</u> 基本金要組入額	99.6	96.9
4	固定比率	<u>固定資産</u> 自己資金	85.8	100.5
5	固定長期適合率	<u>固定資産</u> 自己資金+固定負債	81.2	91.1
6	固定資産構成比率	<u>固定資産</u> 総資産	71.7	85.8
7	有形固定資産構成比率	<u>有形固定資産</u> 総資産	40.5	59.0
8	その他の固定資産構成比率	<u>その他の固定資産</u> 総資産	31.2	26.8
9	流動資産構成比率	<u>流動資産</u> 総資産	28.3	14.2
10	減価償却比率	<u>減価償却累計額(図書を除く)</u> 減価償却資産取得価格(図書を除く)	52.0	49.5
11	※ 内部留保資産比率	<u>内部留保資産</u> 総資産	43.0	26.4
12	運用資産余裕比率 (単位:年)	<u>運用資産-外部負債</u> 消費支出	2.5	1.5
13	流動比率	<u>流動資産</u> 流動負債	242.2	242.8
14	前受金保有率	<u>現金預金</u> 前受金	257.4	357.2
15	退職給与引当預金率	<u>退職給与引当特定預金(資産)</u> 退職給与引当金	83.1	57.4
16	固定負債構成比率	<u>固定負債</u> 総資金	4.8	8.8
17	流動負債構成比率	<u>流動負債</u> 総資金	11.7	5.9
18	総負債比率	<u>総負債</u> 総資産	16.4	14.7
19	負債比率	<u>総負債</u> 自己資金	19.7	17.2

※内部留保資産=その他の固定資産 + 流動資産 - 総負債

(注)「全国平均」は日本私立学校・共済事業団の「今日の私学財政」2013年度版による。

消費収支計算書関係の財務比率表

(%)

	比率	算式	2012年度	全国平均
1	帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	10.5	5.2
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	77.5	52.6
3	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.8	1.9
4	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	15.2	10.3
5	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰属収入}}$	60.5	49.5
6	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	24.1	36.1
7	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.7	7.2
8	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.0	0.3
9	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	9.6	9.9
10	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	7.7	10.0
11	人件費依存率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	78.0	94.0
12	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	99.0	105.2

編集後記 :

天使大学大学院助産研究科年報 - 自己点検・評価報告書 - 2013年度版が発行となりました。

年報は、教育研究活動の評価を教職員間で可視化するシステムづくりの一つとして定着することを目指しており、その内容をまとめたものとして教職員の皆様には大学全体における次への課題を明らかにするものとして利用していただくものになればと考えております。今後も教職員の皆様と共に考え、そして共に取り組む自己点検評価活動でありたいと思います。大学の自己点検評価活動についてのご協力、ご理解を今後もどうぞよろしくお願ひいたします。

2014年11月

自己点検評価委員会委員長 茎津 智子

2014年度 自己点検評価委員会

委員長：茎津 智子（看護学科）

委 員：大久保岩男（看護栄養学研究科長）

園生 陽子（助産研究科長）

前田 明子（看護学科長）

山部 秀子（栄養学科長）

川口 雄一（教養教育科長）

佐保 末男（事務局長）

金澤 康子（栄養学科）

総務課：高山 美香

2013年度

天使大学大学院 助産研究科

年 報
—自己点検・評価報告書—

2014年11月発行

自己点検評価委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<http://www.tenshi.ac.jp>
